

その いずみの園だより vol. 63

2015.4.24

春季号



それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは愛である。コリントの信徒への手紙113:13

社会福祉法人 九州キリスト教社会福祉事業団
中津総合ケアセンターいずみの園

基本理念
神と人とに仕えるキリスト教の愛と奉仕の精神を基本理念とする
①アメニティ(快適主義) ②ヒューマニティ(人間主義) ③ローカリティ(地域主義)

〒871-0162 大分県中津市永添 2744 TEL0979-23-1616 代
http://www.izuminosono.jp E-mail:sogocare@deluxe.ocn.ne.jp



福祉の里センター サマリア館

「地域福祉の拠点として」

この4月2日、建築中であった共生型事業所『福祉の里センター サマリア館』の竣工式が行われました。これは2012年に策定された「いずみの園新5か年プラン・中津総合ケアセンターいずみの園構想」により、2013年に市内永添で事業開始した障がい者就労継続支援事業『シャローム』に続くものです。

サマリア館は、これまで『かきざサポートセンター』で実施していた高齢者デイサービス、『児童クラブピーター』に加え、新たにお母さんが子どもと一緒に集える「地域子育て支援センター」やハンディのある未就学児から高校3年生までが通う「児童発達支援・放課後等デイサービス」も始まりました。また、地域の人々がカフェでコーヒーを飲みながらお祭りや町内の相談ごとができる場所にもなります。

サマリア館は、①多世代間の交流 ②共生社会の実現 ③次世代への文化伝承を目標としており、高齢者、障がいのある児・者、母子、地域の人々などすべてが対象となります。加えていずみの園には、この4月「地域公益課」が新設され生活困窮者問題にも着手しました。地域のいろんな課題に対応できる、これが、『中津総合ケアセンターいずみの園』構想です。

国は人口減少、少子高齢社会の到来に備えて今、「地域包括ケアシステム」の構築に熱心に取り組んでいます。お年よりも、子どもも、ハンディのある人も、みんなが元気で差別のない地域を作ろう、みんなで支えあい思いやりのある地域を守ろう、そういう地域社会です。いずみの園は2018年に創立40周年を迎えます。今後も、『中津総合ケアセンターいずみの園』は地域づくり、地域福祉の拠点としての役割を果たしてまいります。ご支援をよろしくお願いいたします。



社会福祉法人九州キリスト教
社会福祉事業団 理事長
中津総合ケアセンター
いずみの園 施設長

富永健司

2015年度 中津総合ケアセンターいずみの園基本方針 『地域の福祉拠点としての確立、新5か年プランの推進』

社会保障関係費が110兆円を超え、2025年には150兆円に達するといわれています。その半分を医療と介護が占めており、医療と介護の改革が今後の最重要課題になります。さらに、子ども子育てが社会保障体制の4本柱目に加えられ介護財政の将来は厳しいものとなりそうです。先の国会で医療介護総合確保推進法が成立し、国は、2025年までに「地域包括ケアシステム」を強力に推し進め完成させる予定です。これは、医療と介護が連携し、「施設、病院」ではなく「地域、在宅」でその人らしく最後まで暮らしていただくという高齢者支援システムです。

そうした中で、ここ数年前から、我々はこの流れを捉え、2010年から地域包括ケアの中心的役割を持つ24時間のホームヘルパーサービスや小規模多機能型居宅介護事業を開始しました。2012年には「いずみの園新5か年プラン」を策定し、地域のニーズに即した事業を積極的に展開してきました。今後、次世代の社会保障制度、社会福祉法人制度改革にはまだ不透明なところもありますが、いずみの園は新5か年プランを強力に推進し、地域包括ケアシステムと地域の福祉拠点としての役割を果たします。

1. 中津総合ケアセンターいずみの園事業の確立

「新5か年プランの推進」

①地域包括ケアシステム事業の推進

「住みなれた地域で最後まで」

- ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護「24時間コールセンター」
- ・小規模多機能型居宅介護「寄り合いセンターいずみ」
- ・認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）

認知症高齢者等にやさしい地域づくり

- ・生活困窮者対策等地域公益事業
地域公益課の新設
- ・行政、社協、商工会議所事業との連携



定期巡回・随時対応型
訪問介護看護

②共生型サマリア館事業の確立

「共生型地域交流スペース・多世代間の交流」

- ・地域子育て支援事業
- ・児童発達支援事業
- ・放課後等デイサービス事業



オレンジカフェの様子

③障がいサービス事業の拡充

「元気に働いて社会的自立」

- ・部名を「共生サービス事業部」と変更
- ・就労継続支援事業A・B型
ワークセンターの拡充
- ・グループホーム事業の研究



就労継続支援A型（メンテナンス）

2. 経営基盤の確立、適正利益の確保

「経常利益、組織体制の確立」

- ・介護報酬減収対策、増収は地域の信頼の証
- ・経営基盤、組織体制の確立 法人本部事務局体制
- ・各部独立採算制、経営分析の実施

3. 人材の確保、育成、やりがいのある職場作り

「活き活きとした職員、地域での役割」

- ・人材確保関連具体化検討チームの設置
- ・メンタルヘルス計画
- ・働いてみたい職場
- ・職場の待遇労働環境の改善

2014年度 第3回理事会・第3回評議員会が3月30日に開催されました。

3月30日（月）10時から、2014年度最後の理事会・評議員会が、当園いずみ館において開催されました。まず開会に先立ち、第2回理事会において新評議員として理事会の同意を得た福成清子さん（いずみの園オンブズマン）が紹介されました。

冒頭、富永理事長から開会に当たり、「法人の理念のもとに、①地域包括ケアシステムに向けての先駆的な取り組みにより地域の福祉拠点としての確立 ②『いずみの園新5か年プラン』の推進 ③人材の確保・育成・やりがいのある職場づくり」を2015年度の基本方針としていきたい」との挨拶がありました。

続いて、審議議案として、①2014年度補正予算案 ②2015年度事業計画 ③2015年度予算案 ④定款の変更 ⑤めぐみ保育園園長人事 ⑥いずみの園の組織改正・職員給与規程等の改正および『子ども子育て支援新制度』に伴う運営規程の制定 などの議題について評議員会での評議および理事全員賛成の議決で承認されました。

また、報告事項として、各事業の検討状況や保育園の監査結果などについて各部次長・園長から説明があり、いくつかの質疑を経て了承されました。

2015年度に

向けて、社会福祉法人への在り方や介護報酬等の大幅減額、人材確保の問題など社会福祉事業者にとって厳しい状況にありますが、2015年度も当法人を代表する役員がガバナンスのもとに、職員一同法人理念の実現のため邁進して参ります。

（法人本部事務局）



組織人事関係はP5に記載しています。

2011年から検討をしていました「福祉の里センター サマリア館」が4月13日から事業開始しました。基本的発想として、「制度の垣根を越え、高齢者、障がいのある児・者、子どもが地域の中で共に生きる」を発想として、3年半の間、施設見学や開設準備チームを発足し検討を続けてきました。その間、大分県、中津市、地域住民の方々のご協力、ご助言を頂きながら、今般無事に事業を開始に至ることができました。関係者の方々にはこの場を借りてお礼申し上げます。

本センターでは、高齢者、障がい児、子どもと縦割りではなく、横割りの事業展開を行って行きます。

構想（プラン）

- 介護保険等
 - ・地域ケアシステムの推進
 - ・介護保険、介護予防、元気老人、健康維持
- 障がい福祉
 - ・共生する社会の実現 インクルーシブな社会（包摂する社会）
 - ・働く場、地域での居場所づくり
- 子ども子育て
 - ・次世代育成
 - ・若い母親の子育て・各種相談（お年寄りが悩み相談にも対応）
- 地域住民
 - ・地域の文化を次世代に伝承
 - ・思いやりあふれ、安心して暮らせるまちづくり

実施事業

○デイサービスセンターかきぜ

既存の施設で実施していた、介護保険の通所介護事業所を移設。新たな運動機器を導入し機能訓練を強化しています。また、65歳以下の障がいのある方のご利用も可能です。

さらに新規事業として介護保険法の改正に伴い、2015年度から介護予防・生活支援サービス事業（総合事業）を実施します。

○いずみの園訪問看護ステーション

本部「いずみの園」で事業を行っていた訪問看護ステーションを移設。介護保険・医療保険を使ってご自宅に訪問し、看護を提供します。

○中津市地域子育て支援センター ポール

子育て中の親子が気軽に集い、子育て教室や相談など行いながら、他の保護者と交流する場を提供します。

○いずみの園児童クラブ ポール

就労等で保護者のいない放課後、小学生が安心・安全に過ごせる場所を提供し、子どもの育成を図ります。

○児童発達支援・放課後等デイサービス マルコ

障がいを持った未就学の児童や、学齢期の児童の基本動作や知識、技能の習得、集団生活に適用できるよう支援を行います。



児童発達支援・放課後等デイサービス マルコ

○障害者生活支援センターエマオ（特定・障害児相談支援）

障がいを持った方の相談支援、各種サービスの紹介、利用計画の作成などを行います。

○地域の方へのサービス

文化伝承や各講座の開催や喫茶コーナー・介護予防などの運動が行えるスペースなど、気軽にご利用いただけます。

「福祉の里センター サマリア館」では地域の方も利用できるように、喫茶スペースを開放し、高齢者、障がいのある方、児童、親子、地域の方と、様々な人が活動する空間になります。障がいの有無、各世代間で互いに思いやり、助け合いができ、このサマリア館から、地域に広がっていただけるように、事業に取り組んでいきたいと思っております。



フリースペース運動機器



喫茶コーナー



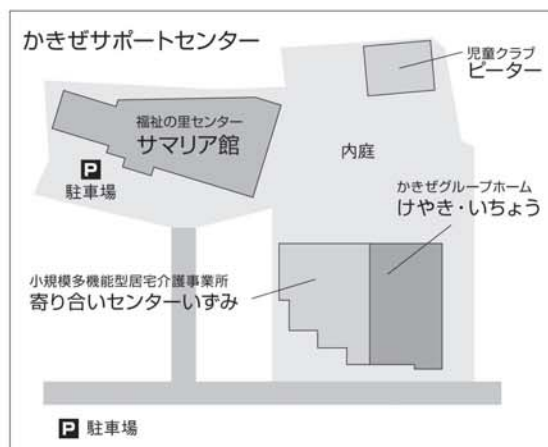
中津市地域子育て支援センター ポール

「サマリア館」の名前の由来

「サマリア館」の名前の由来は、旅の途中追いはぎに襲われて瀕死の重傷を負った人を、見ぬふりをせずに助けて手当をして宿屋へ運び、宿代も全て支払って介抱したというサマリア人の話からきています（新約聖書ルカ福音書10：30-37）。イエス様は「行ってあなたも同じようにしなさい」と言われました。



2F階段前のスタンドグラス



住所：大分県中津市蛸瀬 643 番地



障害者生活支援センターエマオ（特定・障害児相談支援） 玄関

構造：鉄骨2階建て 床面積：898.32㎡

ひろ ば いずみの園広場

＊ ご利用者ご家族の声 ＊



コールセンター24時間サービス

千土寅雄様のご家族 高榎マサコ様

兄は以前に、別府のリハビリセンターにお世話になっていましたが、昨年の2月に退院して丁度1年になります。それから「いずみの園」にお世話になっていきます。前にも市内の施設に一時入所していましたが、「家で暮らしたい」と在宅生活を希望しました。頑固な性格で、職員さんに随分ご迷惑をおかけしております。

今は朝・昼・夕、それと夜にもう1回、その他にコールポタンを押すといつでもすぐに来てくださいます。一日のすべてをヘルパーさんをお願いしています。

月に1度は主治医の診察を受け、週1回は通所リハビリに、金曜日は家でお風呂にも入れてもらっています。

食事から買い物まですべてお願いして、私(妹)は安心してとっても助かっています。皆さんがとてもよくしてくださいます。

女の子を育てたことのない兄ですから、「娘にしてみたら、こんなにやさしくしてくれるのよ。ちゃんと言うことを聞いてね」といつも言っているのですが。

この頃は少し元気が出てきたように思います。88歳が近い兄ですが、これからもよろしくお願いします。

(83歳の妹より)



＊ ご利用者の声 ＊



シニアレジデンスいずみの森

ご利用者 雨宮 恵二様

「いずみの森」に入居を許されてから、早8年目になりました。その間、胃癌手術など大事もありましたが、総体的に祝福の日々でありました。感謝の他ありません。

何と言ってもパウロ館(管理棟)のスタッフの温かい見守りを感じています。昼夜を分かたぬ見守りは、老呆の私たちには不可欠の支えであります。様々な配慮が、どれ程私たちの生活を充実させて下さっているか、本当に有り難い限りです。そして私のような我儘者にも自由を享受することを許して下さい。それは最高の幸せです。

「いずみの森」には、四季があることが素晴らしいです。春の梅、桜は勿論、タンポポ、仏の座、大犬のふぐりなども目を見開けば可愛く咲いています。夏は確かに暑いですが。

しかし、木々の緑はまさに「森」ですね。木陰の涼しさは格別。秋は紅葉が見られます。メ

タセコイアの紅葉は断トツですね。この落葉針葉樹との出会いも「森」での初体験です。冬はちゃんと雪が降ります。廻る四季が下手なカメラの楽しみを増してくれ、息けようとする俳句・短歌作りをそっと励ましてくれるのです。嬉しいじゃないですか!

今年、85歳。これからも「いずみの森」で、夫婦共々支えられて生きていきたいと心から願っています。どうぞよろしく!



ボランティアの声



すずめの家 柳 寿一様

私は、「沖代すずめの家」でお兄さん役のお世話をしています。お兄さん役といっても、普通のヘルパーと変わりありません。いずみの園さんのボランティアを、「すずめの家」でやらせてもらってから10年になります。

いずみの園では、特別養護老人ホームのご利用者が「アウトデイ」という外出する機会を設けています。その方々を、「すずめの家」が受け入れています。もう10年にもなるでしょうか。

ご利用者の中には、認知のある方もおられます。しかし、不思議と「すずめの家」では落ち着いておられます。窓の外から、通りの車やバスを見ては手を振ったりします。自分の家に帰った気分なのでしょう。また、認知のある方に、「ああしなさい、こうした方がいいよ」などと指図しますと、「怒られているみたい」といいます。気をつけなければと思います。



すずめの家でのアウトデイの様子

「すずめの家」のボランティアには、出前演芸があります。いずみの園さんのデイサービス「ふれあい館」、同「ふれんど館」に2ヶ月に1回行かせていただいています。フラダンスあり、ドジョウすくいあり、手品あり、懐かしのメロディありますが、何よりも大事なことは、やっていける自分たちが面白くなければならぬということです。自分たちが面白くないことを、見ているご利用者の方が面白くはありません。いろいろ申し上げましたが、私達も高齢の者ばかりです。毎回毎回、ボランティア活動をやらせていただき、楽しませていただきましてありがとうございます。お礼申し上げます。

組織の変更 2014年12月1日以降

- 1 組織
- 4月1日付
- ①法人本部事務局に、「経営企画室」、「総務部」、「人材育成・研修センター」を置く。
 - ②障がいサービス事業部の名称を「共生サービス事業部」に変更する。
 - ③在宅サービス事業部に、「地域公益課」を新設する。
 - ④在宅サービス事業部に、「デイサービス課」を置き、その所属にふれんど館、ふれあい館、ベテルハウスを置く。
 - ⑤かきぜサポートセンターに、「児童サービス課」を新設する。
 - ⑥かきぜサポートセンターに、「訪問看護課」を置く。

人事異動 2014年12月1日以降

- 1 異動役職者
- 4月1日付
- | | | |
|-------|--------------|----|
| 松井 学 | 中央サポートセンター | 課長 |
| 今永 弘枝 | 児童サービス課 | 課長 |
| 高西 保行 | 相談課 | 主任 |
| 榎澤亜衣子 | 就労支援事業課 | 主任 |
| 八田 淳子 | 地域公益課 | 主任 |
| 須崎 敏治 | (在宅) デイサービス課 | 課長 |
- 2 異動一般職
- 1月1日付
- | | | |
|-------|--------|-----|
| 水嶋 裕介 | ベテルハウス | 介護員 |
|-------|--------|-----|
- 4月1日付
- | | | |
|-------|------------|-----------|
| 池田 真美 | 児童サービス課 | 児童指導員 |
| 三澤奈津子 | 児童サービス課 | 児童指導員 |
| 有馬 利江 | いずみの森 | 介護員 |
| 山崎 容子 | ふれんど館 | 生活相談員兼介護員 |
| 永添智恵美 | 地域包括支援センター | 介護支援専門員 |

- | | | |
|-------|------------|-------|
| 三原 美佳 | ベテルハウス | 介護員 |
| 吉川美智代 | デイサービスかきぜ | 介護員 |
| 長門 真理 | デイサービスかきぜ | 介護員 |
| 野上 恵子 | デイサービスかきぜ | 介護員 |
| 生地 茜 | 児童サービス課 | 児童指導員 |
| 外園 千恵 | かきぜグループホーム | 介護員 |
| 井堀智恵子 | 児童サービス課 | 児童指導員 |
| 上畑美佐江 | 児童サービス課 | 児童指導員 |
| 大西 とよ | 児童サービス課 | 児童指導員 |
| 久家賀賀子 | 児童サービス課 | 児童指導員 |
| 中川寿美子 | 児童サービス課 | 児童指導員 |
| 永元 淳子 | 児童サービス課 | 児童指導員 |
| 古園 淑子 | デイサービスかきぜ | 看護師 |
| 安賀 渚 | 寄り合いセンター | 介護員 |
| 原田由喜子 | ふれあい館 | 介護員 |
| 末吉亜紀子 | ふれんど館 | 介護員 |
| 永松 幹登 | かきぜグループホーム | 介護員 |
| 古賀 裕明 | 就労支援事業課 | 職業指導員 |

3 新採用

- 4月1日付
- | | | |
|-------|----------|-------|
| 中原 綾 | 介護課 | 介護員 |
| 松本 翔多 | 介護課 | 介護員 |
| 三木 侑紀 | 介護課 | 介護員 |
| 橋内 尉至 | 聖愛ホーム | 栄養士 |
| 井窪 昌子 | 看護課 | 看護師 |
| 友清真由美 | 児童サービス課 | 児童指導員 |
| 千鳥 美樹 | リハビリセンター | 介護員 |
- 4月7日付
- | | | |
|-------|-------|------|
| 大保くるみ | 訪問介護課 | ヘルパー |
| 渡邊 美佐 | 訪問介護課 | ヘルパー |

(以上2015年4月7日まで)

シリーズ

キリスト教と中津 ①

「黒田官兵衛」



黒田如水(官兵衛)(大分県立歴史博物館所蔵)

昨年、NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」が放送されました。その主人公、「黒田官兵衛(出家後は黒田如水)」は、中津にゆかりのある人物です。

天正15(1587)年、豊臣秀吉の九州征伐に貢献し、領主として、豊前国中津(現在の大分県中津市)に中津城を築き、城下町の造営に着手、現在の中津の礎を築いたのです。

官兵衛は、高山右近の導きにより、キリスト教に入信したと言われており、「ドン シメオン」という洗礼名を持っていました。洗礼名の「ドン シメオン」はローマ字表記で「simeon josui」と書き(諸説あるようですが)、意味は「耳を傾ける、聞く」だそうです。

官兵衛は後年出家しており、出家名(如水)のほうに官兵衛より知られているかもしれません。この「如水(じよすい)」は洗礼名の「josui」からとったとも言われています。市内にも地名として残っています。

仏教徒として出家しているにも関わらず、出家名にキリスト教の洗礼名が隠れているとは、遊び心がある「軍師官兵衛」さんです。

(経営企画室)

2015年度取り組みについて

『人材確保関連具体化検討チーム』の発足について

経営企画室
課長 末延 政光

厚生労働省によると、介護人材は全国ベースで2015年度には30万人不足すると推計されています。当「いずみの園」でもその傾向は徐々に現れており、ケアの重要な基盤である人材の確保に新たな対応を考えていく必要があります。

そのため、2015年度の法人としての重点課題として、本年1月から園内に部課長を中心とする『人材確保関連具体化検討チーム』を発足させ、4月からの具体的方策について検討に着手します。



特別養護老人ホームでの様子

第1班（人材確保行動班）

- ①今後の募集関連の新たな動き（募集先・資料等）について行動の種類（学校、地域・IT活用、合同説明会など）の多様なパターンを検討し、方針を決定。
- ②インターシブ、事業所見学、先輩の学校訪問などについて4月から行動。

第2班（人材育成計画策定班）

- ①当面は介護員・看護師の入職1～2年の職員を対象に「育成研修目標」、「共通研修内容」、「職種別研修内容」を作成し、本年4月から実施。
- ②具体的には、エルダー制（先輩）による評価・自己チェックポイントについて整理。

第3班（職員待遇環境等検討班）

- ①待遇（規程等の改訂）、働き方、福利厚生・ワークライフバランスの具体化など、職員の「定着化」や「安心して働ける」職場環境の充実のための現状把握と改善策（2015年4月からの実施）を決定。
- ②出来るものから順次、実現し「いずみの園新5か年プラン2012年度～2016年度（7）ワーク・ライフ・バランス 働き甲斐のある職場づくりの実現」



デイサービスでの様子

この企画の実施に当たっては、ボランティア行政所管の中津市福祉部や、その業務が委託されている（社福）中津市社会福祉協議会と、今後、事業として重複することがないよう調整していく必要があります。

いずみの園における「ボランティア等組織化」に向けて

人材育成・研修センター
センター長 岩崎 深雪

当園「ボランティア等組織化推進班」の活動は社会福祉法人に求められている「地域における公益的な活動」のひとつとして、2015年度中のスタートを目標に取り組みすることとしています。

今後の本格的な長寿社会を間近に控え、リタイヤされた世代の方々（特に団塊世代の男性）やお元気な高齢者の社会貢献活動・生きがい対策について、「いずみの園」も事務局的役割を果たし、その活動を支援し地域社会の中の自助、互助そしてみんなで助け合う社会福祉実践に結び付けていければと考えています。

「ボランティア等組織化推進班」では、当園で1997年から約20年来、力を入れてきたボランティアの育成の基盤に加え、ボランティアを「したいけどその一歩が踏み出せない」「どうしたらいいの？」など、その組織化についてこれまでに4回の会議を行い、受け入れ体制、広報、各種研修等の現状など組織化に向けての論点整理、検討事項の確認作業を行ってきました。

今後は、ボランティア活動のメニューや体験コース、導入講座などを設けるなど具体的な動きを始めたいと思います。そして、このようなボランティア等々の組織を図ることによって小さくとも地域でのまちづくりや社会貢献活動につなげていければと思っています。

この企画の実施に当たっては、ボランティア行政所管の中津市福祉部や、その業務が委託されている（社福）中津市社会福祉協議会と、今後、事業として重複することがないよう調整していく必要があります。



学生による清掃のボランティア



デイサービスでのボランティア（整髪）の様子

障がい事業の総合化を目指して



共生サービス事業部
相談支援課
課長 角 令子



就労継続支援B型（農作業）の様子

「中津総合ケアセンターいずみの園」の障がい児・者支援については、相談支援事業、ホームヘルプ事業、生活介護事業、日中一時支援事業、就労継続支援事業A型・B型を実施していますが、本年4月からサマリア館で児童発達支援・放課後等デイサービス事業を開始しました。

こうした障がいサービス関係事業の展開に加え、さらなる充実を目指して、2014年4月に、いずみの園内関係各部の職員12名から構成する『障がい事業総合化構想検討チーム』を立ち上げました。その中で、地域のニーズは何か、地域に貢献できる事業は何か、などについて9か月・7回の検討を重ねた結果、地域に必要性の高い事業として、住まい（グループホーム事業）と日中活動（生活介護事業）の事業展開を図ることを決定しました。

この方針のもと、中津市が本年4月から作成した「第4期中津市障がい福祉計画」に登録し、右記の2事業を具体的に進める準備班として、実務者4名による『共生事業総合化に関する準備班』を結成、2017年度までには、グループホーム事業と生活介護事業の開始となるように準備を進めていきます。これからは、高齢者部門に加え、障がい部門でも、「中津総合ケアセンター」として総合的にサービス提供ができる法人を目指します。（本年4月から「障がいサービス事業」を「共生サービス事業」と称し、部名も改めました。）



準備班の打ち合わせ

この企画の実施に当たっては、ボランティア行政所管の中津市福祉部や、その業務が委託されている（社福）中津市社会福祉協議会と、今後、事業として重複することがないよう調整していく必要があります。

園内の花木を探索

「いずみの園」の敷地内にはたくさんの花木が植樹されています。この花木をシリーズで紹介します。

●ハクモクレン（白木蓮）

モクレン科の落葉性樹木です。昔は蘭（ラン）の花に似ていることから木蘭（モクラン）と呼ばれていましたが、蘭よりも蓮（ハス）の花に似ているということで木蓮（モクレン）と呼ばれるようになったそうです。

日が良く当たるツボミの南側がブツブツと膨らみ、ツボミの先端が北を向くことから、「磁石の木」とも呼ばれることもあるそうです。

3月下旬頃から株いっぱい白い花が咲きますが、花の見ごろは3日間程度しかなく、なかなか満開の花を目にすることが難しい木です。

花言葉は「高潔な心」、「慈悲」です。



二人は、「道で話しておられる時、また聖書を説明してくださった時、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合った。
：本当に主は復活してシモンに現れたと言っていた。
新約聖書 ルカ福音書24章

4月最初の日曜日にイースター（復活日）を迎えました。十字架上で亡くなったイエスは墓に葬られましたが、多くの人にあらわれてよみがえったという出来事です。この出来事は今日に至るまで連綿と本当の出来事となって続き、キリスト教の信仰となっています。

私たちはこの世に生まれて、多くの人の手をかりてそのお世話によって歩んで参ります。それらを一言でいうことはできませんが、「ご恩」という言葉で表現することがゆるされるでしょうか。

ご恩を感じるようになりました、という私達の気持ちを聖書はその物語の中で「復活」という言葉で表現しました。新しい歩みの始まりです。

チャブレン通信



堤 健生

「いずみの園」の総合防災訓練を行いました。



3月1日から1週間は「春の全国火災予防運動」です。「いずみの園」ではこの時期に合わせて、総合防災訓練を行っています。

今年は大震災から4年経過した3月12日（木）の10:30より、「ケアマンション聖愛ホーム」の2階娯楽室より日中に出火したという想定で、職員55名が参加し訓練を行いました。

中津市消防本部立ち会いのもと、非常ベルを鳴らして「聖愛ホーム」のご利用者29名を8分間で第2駐車場まで避難誘導をし、また、逃げ遅れた人を職員が支え誘導する訓練を行いました。

その後、中津市消防本部より消火器の基本的取扱の指導を受け、火点標的に消火器での消火訓練を行いました。



消火作業風景

『中間管理職講座2015 第6期介護報酬改定内容と経営戦略について』を行いました。

2月13日（金）、「中間管理職講座2015（課長編）『介護報酬改定と経営戦略について』」を行い、部課長・主任の講座対象職員と介護報酬請求事務担当者、計39名が参加しました。

この講座は2部構成で、第1部では特養事業部長、在宅サービス事業部長、かきゼサポートセンター長による報酬改定概要の報告・説明がありました。

第2部では、理事長と介護保険センター課長による、当園の介護保険「経営戦略」について対談を行い、今後の当園の基本方針や事業の取り組みについて話し合われました。



第2部対談の様子

編/集/後/記

「春」は足音を立ててやってくるという。強い風の春一番、雪解け水の流れるせせらぎの音、鳥たちのさえずりの音。これらの音を言い当てているのかも知れない。

今年も「春」がやってきた。「春」はまた「新」という言葉が似合う。「新入生」、「新学期」、「新年度」、「新番組」。

「中津総合ケアセンターいずみの園」でもまた新たな職員が入職し、新しい事業所「福祉の里センターサマリア館」が開設した。

心機一転、新たな気持ちで頑張りたいものだ。（末）

2015年度の入職式が行われました。



富永理事長と新卒採用職員

4月1日（水）、2015年度の辞令交付式が地域交流ホーム「いずみ館」で行われ、今年度4月1日付け新卒採用の新任職員4名に対し、富永理事長より辞令が手渡されました。

理事長より「いずみの園」を担うのは皆さんであるということとを自覚して頂きたい。地域の福祉拠点としての役割を「いずみの園」が果たしていく、そのためには皆さんの力が必要です。期待しています。頑張ってください。」と挨拶があり、その後各部・センターの部次長より激励の言葉がありました。

福祉の里センター サマリア館の竣工式が行われました。

本年4月から共生の場づくりを提供する「福祉の里センター サマリア館」の竣工式が、4月2日(木) 10:30から「サマリア館」で行政、市内社会福祉法人代表及び地域の方など来賓22名並びに工事関係者4名、当法人の役員5名など計48名の参加をいっただいで挙行されました。

まず、キリスト教式での奉獻式が行われ、続いて竣工式では、当法人富永理事長の挨拶、工事関係者への感謝状の贈呈、来賓の紹介、来賓を代表して大分県福祉保健部長(飯田高齢者福祉課長代読)と中津市長(須藤副市長代読)のお2人からご祝辞をいただき、「中津型」共生事業へのこれからの期待と激励の言葉を頂きました。

その後、事業所内見学と古江中津市議会議長の乾杯の挨拶で食事が始まり、歓談のうちにも無事、式を終えました。

(かぎせサポートセンター)



奉獻式の様子



1F フリースペース

「第20回ボランティア交流会」が行われました。

今年で20回を迎える「ボランティア交流会」が、3月4日(水) 11:00より「地域交流ホームいずみ館」にて開催されました。

「ボランティア交流会」は、いずみの園にボランティアとして携わって頂いている方々と、職員との交流を図るために毎年行われている会です。

富永理事長の開会挨拶のあと、今回は長い間多くのところでボランティア活動をされている柳寿一様より、「ボランティア活動で思うこと」と題して講演をしていただき、「ボランティアは楽しく一生懸命やることだ」と話され、とても印象に残るお話でした。

次に「かぎせサポートセンター」豊田センター長より「共生事業について」と題し、「福祉の里センター サマリア館」についての事業概要の報告がありました。

ボランティアの中には90歳を過ぎている方もおられ、「ボランティアをするその日はシャキッとなって出かけている」とのこと、頭の下がる思いがしました。

ご参加いただいた皆様と会食をし、終始なごやかな笑い声と共に、交流を深め、盛況の内に終わりました。今後ともどうぞよろしくお願いたします。(人材育成・研修センター)



ボランティア交流会

中津市副市長が事業見学のため来園されました。

2月13日(金)、本年1月5日付で防衛省より就任された須藤彰新副市長が、「中津総合ケアセンターいずみの園」に福祉事業見学のため、市福祉部長等と来園されました。

当法人富永理事長から『魅力発信書』による事業概要説明後、特養のユニットケアやデイサービス事業、グループホーム、24時間定期巡回訪問介護看護サービスのコールセンター、ケアホームなどを廻られたあと、障がい者就労継続支援事業「シャローム」を経て、有料老人ホーム「いずみの森」のパウ

口館で懇談し、概ね2時間の見学を終了しました。副市長はそれぞれの事業を熱心に見られ、職員にも気さくに質問され、意見交換が出来ました。お忙しいところ、利用者と一緒に近いサービスの事業所を視察いただきありがとうございます。(法人本部事務局)



事業説明の様子



園内見学の様子

厚生労働省「老人保健健康増進等事業」調査研究委員長の秋山先生(東京大学特任教授)が地域貢献事業の現地調査のため来園されました。

12月26日(金) 2014年度の厚生労働省老健局からの委託事業「老人福祉施設における地域の高齢者の社会参加と生きがいづくりを通じた地域展開のあり方に関する調査研究」の委員長の秋山東京大学特任教授が、当園の地域貢献事業等の現況調査のため、事務局の方と来園されました。

この調査研究会委員には当法人富永理事長もメンバーとして参画しており、秋山委員長が社会福祉法人の社会貢献調査の一環として、当法人の見学を希望され、来津に至りました。

当園の各事業を見学の後、地域貢献事業の概要、高齢者の社会参加の現状と課題及び今後の取組方向について説明し、秋山委員長の専門分野である『長寿社会のまちづくり』や、団塊の世代のボランティア活動の重要性などについて意見交換を行いました。(経営企画室)



秋山先生と玄関前にて



意見交換の様子